

～格言・名言集～

「大自然は本当に静かにまどろんでいる。光り輝く太陽が昇る前の薄明の時代。」

ギュスターヴ・モロー (1826-1898) フランスの象徴主義画家。

紙業新報

■発行所 (株)紙業新報社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町三丁目7番2号

東京室錦町ビルディング801号室

電話03(6661)3991 FAX03(6700)8539

E-mail: info@shigyoushinpo.com

■編集・発行人 竹本 雄治郎

毎月 1・11・21日発行

■購読料 年間60500円

太田紙販売

新本社ビルで営業を開始

創業百周年事業 次の100年を見据える柱

3月11日から新本社ビルで営業を開始している太田紙販売(代表取締役社長・滝澤寛美、本社・東京都台東区)のオフィスを訪ねた。旧「太田ビル」は建築後数十年を経て老朽化の感が否めなかったが、新しい太田ビルは今風の12階建て新築マンションに生まれ変わり、新事務所はその1階に入った。玄関を訪ねると、おしゃれで控えめな感じの社名ロゴが掲げられていた。落ち着いたグレー調のカラーをまとった新本社ビルは、太田紙販売の『創業100周年記念事業』として建替えられたもの。今年の2月末に竣工した。(取材日:3月27日)

マンション併設ビルに生まれ変わる

大正10年(1921年)7月1日、安田財閥創始者安田善次郎の義弟



新築なった太田紙販売本社ビル。同社創業100周年記念事業として安田不動産と強力なタッグを組んで建替えられた。百年の歳月を表す外壁の4本の柱が印象的。

を創業したのが太田紙販売のはじまりだった。歳月は流れ、2021年に創業100周年を迎えた同社が、安田不動産

と提携して、旧太田ビルに建て替えた。折からの資材高騰などの悪条件も安田不動産



玄関の社名ロゴは今風の控えめに

【太田ビル概要】
▽住所: 東京都台東区柳橋1-31-6 太田ビル1階
▽業務開始: 2024年3月11日

▽併設・レゾールオーブ浅草橋2階〜12階賃貸個数49戸/太田紙販売の区分所有10階〜12階。3月中旬より入居開始。

の協力のもと当初の予算で乗り切った。また、人手不足が建設業界を席巻している昨今、浅草橋エリアでも周辺のマンション建設では工期・納期の遅れが多発しているとのことだが、安田不動産と強力なタッグを組んだ太田ビル建替事業に関しては、一切の遅延がなく、計画どおり2月末に竣工。地上12階のうち1階は事務所スペース、2階から12階は賃貸物件となっている。これにより太田紙販売の事業展開に新たに賃貸事業が加わることとなった。

この比率について安田不動産側から「ゆくゆくは持分比率を50%まで買増ししてもよいですよ」という申し出があったという。今すぐそのための資金はないので、持分の買増しはこれから未来に向けた目標となるが、走り始めた太田紙販売の不動産事業は、いわば、周囲の関係者たち

からのこうしたさまざまな後押しに恵まれ、好条件が重なってスタートした格好だ。浅草橋駅から徒歩2分の好立地もあって、4月1日時点で49戸中37戸に入居の申し込みがあり、きわめて順調に推移、「周辺の他の賃貸物件と比べてこの成約率はきわめて高い。入居開始が3月の中旬から、企業等の異動のタイミングとちょうど重なったこと」も寄与した(滝澤社長)。この春にスタートを切った太田紙販売の不動産賃貸事業は順風満帆の船出となった。

SDGsを意識したさわやかな緑色

新オフィスは三方向が道路に面しており、ガラス張りで採光も良く、インテリアはSDGsを強く意識し、森林や自然をモチーフに取り入れたさわやかな緑のイメージでまとめられている。玄関口の印象深いパーテーションボードは日本製紙グループの一員、桜井(株)のサインボードを採用、静岡県にある日本製紙社有林ならびにブラジルA MCEL社の海外植林の風景がエントランスを飾る。社員の各デスク上にある小さな引き出しも、よくあるプラ製ではなく、あえて木製を選んだ。また、応接スペースや会議スペースにある大テーブルには、国産スギを圧縮して制作された、丈夫なうえに木目の風合いのよい特製の天板を使用している。(次頁へ)

太田紙販売(株)が4月1日付で日本製紙(株)の連結子会社となった。同日付で日本製紙(株)の管理部門からの出向者を受け入れ、四半期決算報告書等の管理業務の安定化に対応する。同社は本業の板紙

の卸売販売を主軸に、2019年9月に紙化推進室を設置、脱プラ・減プラに向け「紙でできる」とは紙で。」を追求、紙化製品の普及に努めてきた。2022年12年から日本製紙の新素材セルロースナノファイバーを配合した、日本酒入り化粧品の開発。

新本社ビルの完成に伴い、今年3月から安田不動産との共同事業で賃貸マンション「レゾールオーブ浅草橋」の運営を開始し、賃貸マンション事業に参画している。

紙でつなぐ、未来をつくる

文字の起源を遡ると紀元前四千年にたどりつきます。言葉のコミュニケーションに文字が加わり、紙が発明され、印刷技術も進化を遂げました。そして今、豊かな自然環境を守るために、「紙」が新しい未来を切り拓いていきます。環境にやさしい素材である紙を使うことで、それは未来をつくることです。



国際紙パルプ商事株式会社 KOKUSAI PULP&PAPER CO.,LTD. 〒104-0044 東京都中央区明石町6番24号 TEL: 03-3542-4111(代)

集記 忘れ得ぬカニクリームコロッケの味

太田紙販売といえば浅草橋の駅近くにある茶色い自社ビルで、道路を挟んだお向かいにあるカニクリームコロッケやトンテキで多くのグルメを魅了する洋食店「大吉」が真っ先に思い浮かんだものだが、3月の終わりに

に記者がお邪魔すると、記憶にあるずんぐりした茶色いビルと、ここにはスラっとスマートな12階建てのマンションが建っている。42年創刊、創業百年の太田紙販売に比較すれば青二才のただ、小社の創業者・先代の社長松浦脩は太田

紙販売の元社長、大和田進一氏と日本製紙時代の縁で、その縁で誘われ、記者も松浦の後ろにこのこついで行ったのが初の「大吉」体験なのだった。

が記事のネタを探して歩いてたのにくっついて行った時だった。「評伝宮下武四郎」にも当時の洋紙営業体制強化のくだりで目次の一項目に名前が登場し、「六大学の明治で1番、ショート」だったことも書かれていた。

大和田氏はスポーツマンらしいキレキレした動作で、ふつうは業界紙が見ることのない資

料などを少し見せてくださったりして、たいへん興味深かった。だから後日「大吉」で御馳走になった時は、わたしが大和田氏とお会いするのは二回目だったということになる。

紙、そしてその向こうに。



私たちはビジネスパートナーの皆様の頼れる水先案内人として、「紙」と、その先を見据えた明日へ航行してまいります。

日本紙パルプ商事グループ www.kamipa.co.jp/

紙販売の元社長、大和田進一氏と日本製紙時代の縁で、その縁で誘われ、記者も松浦の後ろにこのこついで行ったのが初の「大吉」体験なのだった。

が記事のネタを探して歩いてたのにくっついて行った時だった。「評伝宮下武四郎」にも当時の洋紙営業体制強化のくだりで目次の一項目に名前が登場し、「六大学の明治で1番、ショート」だったことも書かれていた。

大和田氏はスポーツマンらしいキレキレした動作で、ふつうは業界紙が見ることのない資

料などを少し見せてくださったりして、たいへん興味深かった。だから後日「大吉」で御馳走になった時は、わたしが大和田氏とお会いするのは二回目だったということになる。

SDGsを意識したさわやかな緑色

新オフィスは三方向が道路に面しており、ガラス張りで採光も良く、インテリアはSDGsを強く意識し、森林や自然をモチーフに取り入れたさわやかな緑のイメージでまとめられている。玄関口の印象深いパーテーションボードは日本製紙グループの一員、桜井(株)のサインボードを採用、静岡県にある日本製紙社有林ならびにブラジルA MCEL社の海外植林の風景がエントランスを飾る。社員の各デスク上にある小さな引き出しも、よくあるプラ製ではなく、あえて木製を選んだ。また、応接スペースや会議スペースにある大テーブルには、国産スギを圧縮して制作された、丈夫なうえに木目の風合いのよい特製の天板を使用している。(次頁へ)

Advertisement for Kamipa Group, featuring a compass and a world map, with text about business navigation and sustainability.